

7)昭和63年度防除上特に注意を要する病害虫

中央農業試験場 病虫部

この成績は昭和62年に道立各農試、北農試、各病害虫防除所及び道農業改良課が実施した予察事業並びに試験研究の結果から、主要病害虫の発生状況と新発生病害虫を総括し、その中から防除上特に注意を要する病害虫についてとりまとめた。

1.病害虫の発生概況

農耕期間中の7月中旬から8月下旬にかけての天候は曇りや雨の日が多く、しばしば低温傾向となったことから、病害は例年になく多発するものが多く、反面害虫は抑制されがちとなり、アワヨトウ等長距離移動性のものを除き並から少発傾向となった。

2.昭和62年度に多発した病害虫

作 目	やや多 ～ 多発した病害虫
水 稲	いもち病、葉しょう褐変病、褐変穂、ばか苗病、セジロウンカ、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、アワヨトウ
小 麦	雪腐病、うどんこ病、赤かび病、立枯病、眼紋病、アワヨトウ
とうもろこし	アワヨトウ
豆 類	大豆のべと病、大豆と小豆の莖疫病、大豆と小豆の灰色かび病、小豆のさび病、小豆の落葉病、小豆と菜豆の炭そ病、菜豆の黄化病
馬鈴しょ	疫病、塊茎腐敗、軟腐病、葉巻病、その他のウイルス、アブラムシ類
野菜類	タマネギの白斑葉枯病と黒穂病、タマネギ、ニンジン及びダイコンの軟腐病、ニンジンの黒葉枯病、キャベツの黒腐病、キャベツとキュウリの菌核病、トマトの疾病、ナスとキュウリの灰色かび病、キュウリのべと病と黒星病、メロンとスイカの半身萎ちょう病
牧 草	イネ科牧草のアワヨトウ、アルファルファのパーティシリウム萎ちょう病

3.昭和62年度に新たに発生または命名された病害虫

ゴボウの黒条病；担子菌系の真菌、葉脈と葉柄に黒～黒褐色の条斑を生じ、葉が枯死。
アルファルファのべと病；*Peronospora trifoliorum* deBary,葉の裏面に白色の菌そうを形成。
オーチャードグラスの夏葉枯病；*Drechslera dactylidis* Shoem.,葉身の枯死。
レッドフェスクの黒さび病；*Puccinia graminis* Erikss.,葉身にさび色の粉末(夏胞子)を形成。
ニンジンのウストビハマキ；*Pandemis chlorogeopta* Meyrick,葉を食害。
ブドウのチャノキイロアザミウマ；*Scirtothrips dorsalis* Hood,葉、果穂、果軸を加害。
イチゴのヒラズハナアザミウマ；*Frankliniella intonsa*(Trybom),花、幼果、成熟果を加害。
ヒマワリ及びエンドウのアヤモクメ；*Xylena fumosa*(Butler),葉を食害。
ハマボウフウのクロモンシロヒメハマキ；*Epinotia majorana*(Caradja),茎内に喰入。

4.防除上注意を要する病害虫

- 1)防除薬剤の効果低下；表1を参照
 - 2)発生の増加；小麦の眼紋病、豆類の莖疫病及びタマネギの黒穂病は近年多発傾向にあり今後も被害の増加が見込まれている。
 - 3)発生地域の拡大；ジャガイモシストセンチュウの発生が根室支庁管内中根津町においても確認された(52.5ha)。また、昭和61年度に道内への侵入が確認されたイネミズゾウムシは発生地域が拡大し(723.1ha)、さらに広域的に拡がるのが危惧されている(図2)。
 - 4)異常多発；水稻などイネ科作物にアワヨトウが広域的に異常多発した(図3)。
- これらの病害虫については今後発生動向に十分注意し、予察情報を留意の上、適切な防除が励行される必要がある。

表1 新たに確認された薬剤耐性菌の発生状況

作 目	病害名(病原菌名)	感受性の低下した殺菌薬剤名	確認した地域	耐性菌の検出率
水 稲	ばか菌病(<u>Gibberella fujikuroi</u>)	ベンツイミダゾール系4薬剤	道内13市町村	11.3%
豆 類	灰色かび病(<u>Botrytis cinerea</u>)	ベンツイミダゾール系及びジカルポキシイミド系4薬剤	十勝支庁管内 一円	図1参照
食用ゆり	りん茎さび症(<u>Fusarium oxysporum</u> *1 <u>Cylindrocarpon destructance</u> *2)	ベンツイミダゾール系1薬剤	道内14市町村	*1 88.4% *2 67.6%

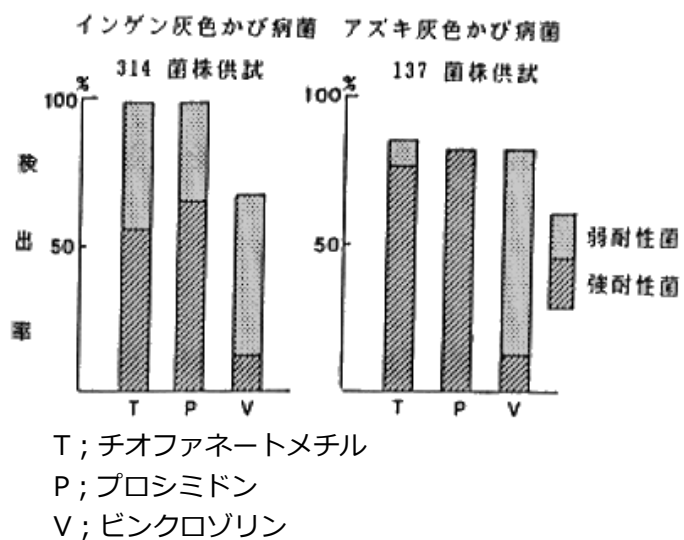


図1 十勝支庁管内における豆類灰色かび病の
薬剤耐性菌検出率



図2 北海道におけるイネミズゾウムシの発生分布



(注)イネ科牧草、麦類、とうもろこし及び水稻など
作付面積に対する発生割合で示す。

図3 昭和62年アワヨトウ第1世代の発生状況